

審査結果の要旨

報告番号	乙 第 2845 号	氏名	末友 仁
審査担当者	主 査	子 陪 等 恩 (印)	
	副主査	藤 本 公 則 (印)	
	副主査	石 竹 康 也 (印)	
主論文題目： COPD assessment tests scores are associated with exacerbated chronic obstructive pulmonary disease in Japanese patients (本邦において COPD アセスメントテストは COPD 増悪を予測する上で有用である)			

審査結果の要旨 (意見)

慢性閉塞性肺疾患症例の状態把握に用いられる COPD assessment tests (CAT) を用いて、比較的短い期間における増悪を予測することを評価した研究である。ある一時期の評価で将来を予測できることは一人一人の患者の時間を以下に有意義に過ごすのかを意識づけるには大切なことであり、通常とは異なる介入法を選択するかどうかの分かれ目となることも意義深い。本研究は臨床的な有用性も高く、学位論文として適していると考えられる。

CAT は日本人を対象に設定されたものではないこともあろうが、想定された 10 点ではなく、本研究においては 8 点に閾値をおくとより鋭敏に将来の予測に役立つという結果が得られている。CAT を本邦もしくはアジアでより有用なものとして活用するには、さらなる創意工夫を生み出す研究が必要と思われる。今後の研究成果に期待する。

論文要旨

COPD 患者の診療において COPD の予後 (増悪、入院、死亡) のリスクを予測する事は重要である。COPD アセスメントテスト;CAT は、患者の QOL(quality of life)を把握するのに適しているが、予後を予測できるかどうかについては明らかではない。そこで1年間の前向き研究を行い、COPD アセスメントテストが COPD 患者の予後を予測し得るかについて検討した。結果、CAT スコアの高い群(10 点以上)と低い群 (10 点未満) を比較すると、明らかに高い群で中等度以上の増悪が多く、早期に増悪がみられた。COPD 患者の HRQOL (health related quality of life) の評価尺度として SGRQ(St.George's Respiratory Questionnaire)が知られているが、COPD アセスメントテストは SGRQ と比較すると簡便な検査である。今回の研究で COPD アセスメントテストは COPD 患者の増悪を予測するのに有用であると考えられ、増悪が予想される際には治療法の変更を行う事で増悪を未然に防ぐ事に役立つと考えられた。